

市役所 GO GREEN チャレンジ

横浜市庁舎では資源再利用により新たな原材料やエネルギーを減らす、環境にも人にもやさしく、経済の活性化にも繋がるサステナブルな循環型社会の実現に向けた取組を行います

YOKOHAMA
GO GREEN

横浜市ではグリーン社会の実現に向け、これまで進めてきたカーボンニュートラルの推進に加え、循環型社会の取組を強化しています。

令和2年に供用開始した横浜市庁舎は自然エネルギー等の活用や省エネ対策など脱炭素型の庁舎となっています。

この機能を最大限生かしながら、プラスチック対策をはじめとする新たな取組を展開するなど、率先して取り組みます。

取組の柱

01

市役所プラ・チャレンジ

- ◆ 飲料容器をはじめとする使い捨てプラスチックの排出を削減します。
その上で「排出したプラスチック」はリサイクルします。

02

バリエーション・チャレンジ

- ◆ 公用車の次世代化、市庁舎内の各店舗と連携した取組、食品ロス削減など多様な視点で環境にやさしい行動に取り組みます。

03

環境に最大限配慮した脱炭素型市庁舎

- ◆ 電力の再生エネルギー化 100%の実現や、地中熱を利用した空調設備の導入など自然エネルギーを最大限に活用しています。

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



01 市役所プラ・チャレンジ【新規】

◆マイボトルチャレンジ

職員は使い捨て飲料容器の削減に向け、率先してマイボトル・マイカップを利用します。

職員の行動目標:マイボトル等保有率 100%(~令和7年度末)

マイボトル対応型 給水機の設置

- ・クールシェアスポット※1でもある市庁舎に3台の給水機を新設し、4月から利用開始しました。
 - ・今後、民間企業との協働により、100台の給水機を市内公共施設に順次設置していきます。
- 【R7.4~5月利用実績】約34,600本相当分(500mlペットボトル換算)

【自治体初】 マイボトルコーヒー サーバーの設置

- ・6年度に行った実証実験(1台)を踏まえ、4月から2台に増台しています。
- 【R7.4~5月利用実績】約2,200本相当分(500mlペットボトル換算)

ペットボトル 自動販売機台数変更

- ・7年3月からペットボトル等の自動販売機の設置合計台数を48台から13台としました。

市庁舎内カフェ全店 マイボトルスポット※2 登録

- ・1~3階のカフェ全店(5店舗)でマイボトルへの飲料提供を行っています。
- 【登録店舗】marine blue、HAMARU、スターバックスコーヒー、フレッシュネスバーガー、おにぎりカフェうめ乃

◆プラスチックごみのリサイクル

執務室、市庁舎内の店舗から出るプラスチック製の容器包装・事務用品はケミカルリサイクル(工業用ガスの原材料に再資源化)、ペットボトルは水平リサイクル(ボトルtoボトル)を実施し、環境負荷を低減します。

脱炭素効果 57,546kg-CO₂/年

【R7.4~5月実績】容器包装・事務用品排出量(ケミカルリサイクルされた量):7,322.2kg

ペットボトル排出量(ボトルtoボトルされた量):2,306.3kg



このほか職員はマイバッグ・マイコトラリーを使用し、使い捨てプラスチックは受け取らないよう取り組みます。

次頁あり



GREEN x EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月~9月 横浜・上瀬谷

02 バリエーション・チャレンジ

(1) 市役所での取組

◆次世代自動車等への転換と台数の適正化【加速】

市庁舎の一般公用車を令和12年度中に100%次世代自動車等にする目標を3年前倒し、令和9年度から100%次世代自動車等で運用します。

あわせて、車両の一元管理等による台数の適正化（R5 84台 → R7.6月現在 64台）を進めます。

目標:令和9年度から100%次世代自動車等で運用



◆デジタル化の推進によるペーパーレス化【拡充】

クラウドサービスの活用等により、一層のペーパーレス化を図ります。

【現在値】共用複合機及びコピー室における印刷面数 令和6年度実績 26%削減 *目標 20%削減（令和4年度比）

目標:令和7年度 共用複合機及びコピー室における印刷面数 30%削減(令和4年度比)

◆グリーン購入の推進

「横浜市グリーン購入の推進を図るための調達方針」を定め、業務に必要となる物品、役務等の調達時における環境配慮を徹底します。

【現在値】グリーン購入ネットワークによる地方公共団体の取組ランキングで満点評価（令和7年6月4日公表）

目標:地方公共団体の取組ランキングで満点評価を継続

(2) 市庁舎内店舗等での取組

◆脱炭素取組宣言【拡充】

事業者の「脱炭素取組宣言^{※3}」に、市庁舎内の全店舗が参画しています。

各店舗がこまめな消灯や使用していない機器の電源遮断などに取り組んでいます。

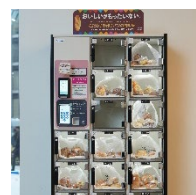
◆家庭から出る廃食油の回収

横浜市と日本航空株式会社は、廃食油を原料とした SAF（持続可能な航空燃料）製造に関する連携協定を締結しています。この取組の一環として「もとまちユニオン」で家庭から出る廃食油の回収を行っています。



◆食品ロス削減 SDGs ロッカー

事業者による廃棄物と CO₂排出を削減するとともに、市民の皆様の意識醸成と行動変容につなげる契機とするため、食品ロス削減 SDGs ロッカーをアトリウム1階に設置しています。



◆紙製容器でのテイクアウト商品販売、地産地消の取組

市庁舎内の一部店舗^{※4}では、テイクアウト商品に紙製容器を使用するなど、プラスチックごみの発生抑制につなげています。また、「よこはま地産地消サポート店」の店舗^{※5}では、旬の横浜市内産の野菜や畜産物を素材に取り入れたメニューを多く提供しています。

裏面あり



GREEN x EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



03 環境に最大限配慮した脱炭素型市庁舎

【詳細は参考資料をご覧ください】

◆自然エネルギー・再生エネルギー等の最大限活用

- (1) 太陽光発電設備、再エネ電気、デマンドレスポンスの導入
- (2) 地中熱を利用した空調設備
- (3) 自然換気による空調エネルギーの低減

◆省エネの取組

- (4) 燃料電池の使用による市庁舎電力の補完
- (5) 全館 LED 照明・人感センサーを採用
- (6) 地域冷暖房(DHC)の導入
- (7) 輻射熱で冷暖房をする空調システム
- (8) 空調設備のきめ細やかな設定変更や共用部照明の節電

なお、市庁舎以外の公共施設でも、脱炭素行動を意識した取組を順次行っています。

※1 クールシェアスポット

冷房設備等を有し、開館（営業）時間中に一部をご利用いただける施設等において、椅子やベンチ等の既存設備を活用して、市民の皆様をはじめとする方々が外出時に一時休憩することができる場所です。

※2 マイボトルスポット

コーヒーやお茶などを持参したマイボトルに入れて販売したり、お水などを無料で提供したりするスポットです。（市内507カ所：令和7年6月現在）
検索サイトからお近くのマイボトルスポットの検索が可能です。



マイボトルスポット検索サイト

※3 脱炭素取組宣言

横浜市では、中小・小規模事業者の皆様へ、身近な省エネ活動を含む脱炭素化に取り組むことを宣言していただく「脱炭素取組宣言」を創設し、宣言された事業者の皆様の脱炭素化の取組を応援しています。

※4 市庁舎内の一部店舗

ピストロ る・ぱん マンジェ、おにぎりカフェうめ乃

※5 「よこはま地産地消サポート店」の店舗

横浜市では、市内産の新鮮な旬の野菜や果物、卵、“はまぼく”など、農畜産物を積極的にメニューに取り入れている飲食店を「よこはま地産地消サポート店」として登録し、地産地消の推進に協力していただいています。市庁舎内ではTSUBAKI 食堂が登録店舗となっています。

お問合せ先

（全体・マイボトル利用促進について）

資源循環局3R推進課長

今村 貴美 Tel 045-671-2563

（市庁舎のプラスチックごみのリサイクルについて）

資源循環局事業系廃棄物対策課担当課長

倉田 力 Tel 045-671-2558

（グリーン購入について）

脱炭素・GREEN×EXPO推進局脱炭素マネジメント課担当課長 東田 建治 Tel 045-671-2336

（食品ロス削減 SDGs ロッカー、家庭から出る廃食油の回収について）

脱炭素・GREEN×EXPO推進局循環型社会推進課担当課長

瀧澤 恭和 Tel 045-671-3901

（庁用車の環境対策について）

総務局管理課長

山本 将之 Tel 045-671-2001

（給水・自動販売機、市庁舎内店舗の脱炭素取組宣言、紙製容器での商品販売、地産地消の取組について）

総務局管理課担当課長

半浦 淳 Tel 045-671-2052

（市庁舎の環境性能について）

総務局管理課設備担当課長

中山 忠相 Tel 045-671-3465



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷